明治二十[illegible]年十二月二十八日内務省認可 [illegible]

大正四年三月二十日發行

婦人衛生雑誌

第三百四號

婦人衛生雜誌

第三百四號目次

講演

○衛生と經濟　ドクトル　シーレ述

叢談

○糖尿病の話　醫學士　篠原昌治

○腸チフス菌携帶者及チフス患者の乳汁の危險に就いて　醫學士　牛山茂樹

○心臟と血液循環（一）　莊司秋次郎

育兒

○乳兒榮養看護の要則　莊司秋次郎

○麻疹の話　醫學士　宇都野研

○厚著と薄著　醫學士　原田逸三

家庭衛生

○齒痛と耳痛の卽治法

○餅は不消化物なるか

○御産の時に入用の品々

○人生の禍根

沙録

○水道の利益○砂糖は安産の藥

雜報

○看護婦規則○トラホーム唱歌○結核豫防かぞへ唄○女教師の職業的能力○辨當主食物調査○結核豫防消毒注意書

廣告

○私立大日本婦人衛生會例會

謹告

○本會四月の例會は都合上休會致事に相成候間此段御諒承被下度

○來五月上旬、本會總會開催の豫定に相成居候處確たる時日會場等については追て御通知可申上候事

大正四年三月

私立大日本婦人衞生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんことを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるもの丶如くまことに口惜しきことなり因て頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講演說話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて庶くは江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要（明治卅二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續在末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたるには役員の協議に依り無費贊とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て每月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親族知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ[illegible]の妃殿下に所出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員三十名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を囑す但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編纂出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を[illegible]す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外每月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　每會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を嘱托し會員をして頭京臨諸せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　每年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事の檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年每に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會

●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし明後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に同送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●雜件

第三十條　本會は每月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金錢若くは其他物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄附者の姓名及品目を添册に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送發として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り每月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし振替にて口座番號東京一〇六〇〇番本會事務所宛に送出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は服く會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地　私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌第三百四號
（大正四年三月二十日發行）



衛生と經濟

ドクトル　シーレ述

これは獨逸の醫家が建築取締法に對して不平を鳴らしたのですが、單に住居問題に限らず、經濟を無視した衛生法は個人衛生に於ても兎角不結果に陷るものであります何れ我邦に於ても必ずこの問題が起つて來ることゝ思ひます。稍ゝ極端な議論のやうですが、御參考になることゝと存じます。　（譯　者）

國民の經濟も、質素な一家族の父が、僅かな收入財産で以てその家族を養つて行くのと同樣、先づ衣食住に就て考へなければなりません。それで總て持てゐるものを此の三つの事に配當しなければなりませんから、住居に增す所は衣服と食物に減じなければならぬわけであります。そこへ衛生と云ふ問題が來る、而してこれは必要な事である、あれは有益な事であると敎へる。住居の爲に或は衣服の爲めに或は食品の爲に相當の費用が增して參ります。所でそれが人の經濟力を增すことが出來るかと云ふことになりますと、先づ出來ないと云はなければなりません尤も非衛生的のことよりも遙かに衛生的で且つ經濟的の事も幾らもあり、又疾病を豫防すると云ふことは眞に出費を節約することになりますけれども、然し直接に經濟力を增すと云ふわけのものではありません、それですから衛生の問題とする所は何でも有益だと思はるゝことを隨意に要求すべきものではない、現在ある所の或は與へられた所の經濟力を以て出來得だけ大なる衛生的效果を擧げ得るやうに應用するにあるのであります。故につまり計算の問題、

分配の法と云ふて可いのであります。

衣、食、住の三つの需用の中でも、住居と云ふものは人間の身體、精神竝に倫理道德上の安寧幸福に大なる影響を有してゐるもので、この住居の衞生は極めて大切なことであります。

それでは住居の衞生に就て如何なることを要求すべきかと申しますと、經濟的であると云ふこと以上には出でない。それ故に住居の法律を立てる場合に於きましても、衞生上望ましいことを緊要條件として定むべきものではない、寧ろ缺くべからざること又實際利益のあることを準標に立てゝ行かなければならぬのであります。

プルタルクの物語の中に次のやうな話があります。

ある賢人が、海の難から人を救ふ神樣の爲に建立された御宮に案內された。そこで案內者の申しますには、これで卿もこの神樣の御威德を御信心になることで御座いませう、御覽の通り、この神樣に救はれた人々が斯樣に花環を奉納して居りますからと云ふた。所がこの賢人は、なるほど、然し私は、此處に懸つてゐない花環、卽ち神樣が救ふことの出來なかつたものゝ花環の方が更に多い、ことを見て居ると答へたそうである。此の種類の神樣、此の種類の御宮は隨分あることで衞生の神樣の御宮も何うやらそのやうに思はれる。

私が自分の生れた市（ナウムブルグ）の別莊町を通るときに斯う問ふのである、『此處に住で居らぬものの住居は何處に在るのであるか』、この別莊町に於ては大に衞生が要求される、例へば家と家との間には非常に廣い間隔が要求されて居る。殊に近來は建築警察法は更に嚴重になつて來た、以前には此の街道の二階建には廣い屋根裏の住居があつたものであるが、今日ではこれは許されぬことになりました。そこで嘗てはこの立派な庭園市街に於て三百乃至六百「マルク」位で羨ましい程の屋根裏住居をして居つた人々は何處へ行つたのであらうか。彼等は遙かに外廓の區にある賃長屋へ押出されたか、乃至は舊都市

の暗く狹く甚だ非衛生的の住宅に押込られたものに相違ない、何れ住まぬわけには行かぬのですから。これは衛生の上に贅澤があるので、その達せんと欲する所と反對の結果を得たわけであります、二三の人が出來るだけ立派な贅澤な家に住まつて、その代りに多數のものが美觀上の顧慮の爲に壓迫されて、此處に家を持ことを禁せられる、それで家屋は改良される代にその實改惡の姿となつたのであります。故に御役人方、特に建築とか衛生とかに關係してゐる御役人方が、これで以て經濟力をも增し得るものと考へるならば、それは間違である。蓋し分配することは出來る、然し增すことは出來ないのであります。住居の爲にこゝにある所の力は、それで以て衛生をやりくるやうに一定の與へられたものとして考へなければなりません、それで中以下の人は、その簡單な住居の爲に先づ百五十「マルク」以上は出せません、田舍になればもつと少ない。故に建築警察は此等中以下の人民の爲に百五十「マルク」位の家賃の家を建てることを標準としなければならぬ、故にもつと良い家ではない、もつと廉い住宅を造ると云ふのが建築警察の責務である、特に此等の住宅の建築法は總て大切な衛生上の要求を可成妨げないやうに利巧にすると云ふことであります。勞働者住宅協會などでは、地方に於ける極質素な一軒家は三千「マルク」で建てるやうにしなければならぬと云ふ意見を發表致しました、卽ちそうでなければ小民は住むわけに行かぬからと云ふ理由である、所でこれは建築警察法に當はまらぬことである、そこで地方長官と大臣とが運動して漸くのことで一千「マルク」を節約して、總計三千「マルク」に近づけ、それから勞働者家屋の建築に取かゝることが出來たと云ふことでありますが、これとても何れの人民も出來るわけではない、それで矢張一二の役所で建てるか二三の金持が建てることになるので、人民の爲にはボテムキン村以上のことはないのである。故に此の如き建築取締法は建築を妨げ且つ困難ならしめ、住居を惡く

するものと云はなければなりません、即ち人民は此の取締の爲に、地方に繁殖することを禁ぜられるやうなものであります。

若し獨逸國民が住居法を規定しやうとするならば、徒らに經濟生活の爲に新なる桎梏や重荷を置いて、移住を困難にし、建築費用を高くすることなく、却て容易にし、低廉にし、これに依て眞に住居を改善するやうに努めなければならぬことゝ思ひます。

終に個人衞生と公衆衞生との比較をして見ますると最初榮養生理の方面で種々立派な發見を致しましたときには、世の中の人は何でも價値ある物質を取込みさへすれば、それで以て人間を强力に健康になし得るものと信じたものであります。即ち可成澤山の蛋白質や脂肪や炭水化物を食へば、益々以て宜しいものと致したのであります。然しそれは間違つて居ると云ふことは既に久しく認められた所でありまして、人間は徒らに肥すべきものでもなければ、徒らに看護すべきものでもない、殊に若い人間に於てさうである、此の如きことに依て少しも丈も力も健康も得るものではない、寧ろ醜くなつて心臟に脂肪が著いて弱くなる位のことである、それよりも鍛錬し練習し、その力を發揮せしめ、その意思を强くすることが必要で、人間と云ふものは只自分の力と意志の働に由て美になり、健康になり、力强くなり得るものであります。斯の如き個人衞生の論を公衆衞生に移して論じたならば何うなるかと申しますと。

慈善事業や物質的利益に依て國民を强健にすることは出來るものでない、此等は徒らに國民をして醜く脂肥させるのみで役に立たぬ、只須らく自己の力を發揮し、鍛錬して、持久、自助、企業進取の方向に敎育することに由て國民は增殖し健全になるものである。故に住居の法律に於ても、慈善事業や他の階級のものゝ出費を利用して大都會に於ける人民の住居を都合好くすべきものでない、此の如きことをするから企業力が衰へ、生活力が沈み、その症狀として娩產減少などゝ云ふことが起つて來るのであ

る、それであるから國民の企業力、特に中以下のものゝ企業力を催進し、中以下のものが自ら建築主となり、家主となるやうにしなければなりません。この小自宅及び小貸家は中以下の人々の爲に、市外に於ても特に田舍に於ても一軒乃至二軒の住居に間に合ふやうなれば結構である。これには建築設計を簡單にして低廉くすることが必要である、而してこれが最良の住居衛生と云ふべきものであります。

吾々の大都會に於て浮草の如くあちらこちらに轉々し、殆ど人格を認めぬやうになつた經濟生活の下に只機械の一個の車輪となり、生なき建築材料となり果てた人民には二三立方「メートル」の空氣と多少の地面或は二三「センチメートル」の光線では迚も間に合ひやうもありません、もう少し自主的に、土著的にもう少し四壁の内に權能ある主人となり得るやうに致したいものであります。何うかこの目的を達し得るやうに努めたいと思ひます。

叢談

糖尿病の話

醫學士　篠原昌治

糖尿病は隨分澤山ありまして、殊に御身分のよい方には比較的多くある病氣であります。一度此病氣に罹りますれば、數年乃至數十年も續きまして容易に治癒りませんのみならず、此病氣には特效藥とてもなく、主として食餌療法によつて治療するものでありますから、爰に此病氣の事に就て御話申上げるのも全く無益のことではないかと存じます。

糖尿病とは其文字の示す通り尿の中に糖分が出る病氣でありまして、それも長き期間持續的に出る時に糖尿病と申ます、若し砂糖を澤山に喰べたとか、又は其他の原因によつて、一時尿中に糖分が出ること

がありましてもそれは單に糖尿と唱へまして、糖尿病とは別のものであります。

糖尿病にはどんな人が罹るかと申しますれば、一般に奢侈の生活を營む人や「アルコール」類を多量に飲用するものに多くありまして、殊に美味のものばかり澤山に喰べて運動の少い人がよく此病氣にかゝります、痩せた人にもありますけれど、一般に肥滿した人に多く、糖尿病と云へば直ちに肥つた脂ぎつた人を聯想せらるゝ程であります、其故以前より糖尿病は富貴の人の病氣だと云はれて居ります。

糖尿病はどうして起るかと申しまするに、其本統の原因はまだよく分つて居りません、然し普通糖尿病の原因として知られて居りますものは、不衛生的なる生活をなすことでありまして、例へば常に好んで砂糖や澱粉の類を多量に喰べるとか、又は澤山に御馳走を喰べながら何時も坐つたり、又は寢ころんだりして居て少しも運動しないと云ふ様なことは此病氣の原因となります。西洋では常に澤山の「ビール」を飲用する人に糖尿病が多いようであります、此病氣は多少遺傳することもありますし、又感冒に罹つたり身體をひどく濕らすと云ふことも時として糖尿病の原因となることもありますけれども之は極めて稀なことであります其他烈しく腦を使つたり又ひどく心配すると云ふ樣なことは此病氣に大なる關係を有するものでありまして、吾邦の糖尿病は斯る原因によつて來るものが多數である樣に思はれます。

糖尿病にかゝつた時には種々なる症狀が起るものでありますけれども其中で尤大切なことは尿中に糖分が出ることであります、然しこれは尿を檢査しなければ分りません、然るに人間の尿は平時は檢査するものでありませんから、たとへ尿中に糖分が出て居りましても之を知らずに過ことは度々あります。

糖尿病に罹りました時には始めは唯何となく氣分が引立たず、全身の倦怠を覺えまして、身體が漸次痩せ、物事に容易に疲勞する等のことがあります、又時としては頭痛がしたり心地あしくて夜間眠られぬ

と云ふ樣なこともあります、それから少し病氣がわるくなりますれば、尿の分量が多くなり、從つて度度便所に參る樣になります、又ひどく渴きまして、何程湯茶を飲みましても滿足することが出來ず、一日中に大きな銚瓶に二杯も三杯も飲むことがありまして、一方より飲めば忽ち渴きを覺え非常に困難することがあります、又食事は充分に喰べらるゝにも係らず身體が衰弱することもあります、其故食はよくすゝんで病人の樣ではありませんけれども、身體は段々瘦せて參りますとはよく糖尿病の患者から聞くことであります。

然し此病氣は大へん渴くと云ふ樣になりますれば誰にでも氣が付きますけれど、未だ其程に重症でない時には少し位渴きましても又尿の分量が少々多くなりましても、別に病氣の爲とも思ひませんで、其他には身體に何等の苦痛とてもありませんから、實際此病氣に罹つて居りながらそれが分らないまゝで何年も經過しまして、不知不識の間に病氣がひどくわるくなりまして、身體が骨と皮の樣に瘦せ衰へたり又は他の病氣たとへば肺病などを併發する樣になつて始て醫者の診察を受ける樣なことが屢々あります何れの病氣でも同じことでありますけれど、凡て病氣は輕い內に治療すれば容易に治癒りますけれども重くなれば非常に治癒り兼ねますから、可成輕症の時に治療することが大切であります、其故若しも身體にどこもわるい處はないけれど、唯何となく氣分が勝れぬとか、又は食事は平時の通りに喰べられても、身體が段々瘦せるとか云ふ場合には必ず醫師に就て健康診斷を受けて置く必要があります。殊に平素肥滿して居らるゝ人でありますれば一層注意せねばなりません。

糖尿病の際には尿の中に糖分が出るのでありますから、此病人の尿を取て見ますれば、健康の人の尿と異なつて居るかと云ふに決してそうではありません糖尿病の人の尿は奇麗によく澄んで實によい尿の樣に見えます、然しそれを檢查しますれば比重が重く

なつて居るとか糖分を含んで居るとか種々異なつた處がありますけれども、唯尿を見たばかりでは之を區別することは殆んど出來ないことであります。

糖尿病の時には前申上げました症狀の外に、身體が痒ゆくなりましたり、又皮膚に濕疹、癤、膿瘍等が出來ることもあります、其他眼の障碍を起し、神經痛や神經衰弱症などは尤屢ゝ來るものであります。

糖尿病にも輕症と重症とがありまして、一般に年の若い人即ち三十歲以前の人の糖尿病は重症が多く、老年即ち五十歲以上のものには輕症が多くあります其中間の年齡の人の病氣は矢張中等度のものであります、此糖尿病の輕症と重症との區別は、普通患者に米麥の様な含水炭素を多く含んで居る食物を與へないで、肉類魚類等のみを與へまして、それで直ちに尿中に糖分が出ない様になれば輕症でありまして若し斯る食物のみを與へましても、容易に尿中の糖分がなくならなければ重症であります。

糖尿病は前申上げました通り、長い病氣でありまして、其經過は病氣の輕重によつて著しく相違して居りますけれども、普通は早くて一二ヶ年、長ければ數十年も繼續しまして、到底死する迄全治せぬ人も少くありません、それでは此病氣は非常に危險な病氣であるかと云ふに決してそうではありません、西洋では糖尿病は比較的重症のものが多くありまして此爲に急に死亡する人も少くありません、けれども吾邦の糖尿病は一般に輕症のものが多くありまして唯此病氣だけの爲に急に死亡すると云ふことは極めて稀であります、充分に養生さへ致しますれば、たとへ此病氣にかゝりましても、別に職業に差支へもなく數十年を無事に經過する人は決して少數ではありません、其故たとへ此病氣に罹りましても、餘り悲觀せずして心靜に養生すると云ふことが尤大切なことゝ存じます。

糖尿病には種々な藥劑が使用せられて居りますけれど、今日までのところでは、糖尿病を確に治癒することの出來る藥のないことは申迄もないことでありま

して、此病氣に對して確に一定の效力があると云ふ程の藥劑すらも發見せられて居りません、其故此病氣にかゝりました時には、主として養生法によつて治療する外はありません、其養生法と申すのは第一が食餌療法でありまして、其他に運動及び精神の慰安等が尤大切なことであります。

糖尿病の食餌療法と申ますのは、普通の人間が常食として居ります米麥の類を全く與へないか、又は大に其量を制限しまして、其代りに肉類魚類野菜等のものを與へるのであります、其故糖尿病にかゝつた人は、食事の內で尤大切なる米飯が喰べられぬのでありますから非常な苦痛を感じますけれど、又其御家族の方から申しますれば病人に米飯を與へないで、肉類魚類野菜等のものを患者が飽かぬ様に、空腹を感じない程度に與へまして、其上成るべく多額の費用をかけぬ様にと致しますには、其御臺處の御苦心は一通りではありません、それで私は糖尿病の時には如何なる食物を何程位與へてよいか、又糖尿病にかゝつた人は常に如何なる心懸けで居ればよいかと云ふ様なことに就て追々に申上げたいと存ます。

腸「チフス」菌携帶者及「チフス」患者の乳汁の危險に就いて

醫學士　牛山茂樹

腸「チフス」は漢法醫家の方で傷寒と云ふ名稱の內に抱括してあつた、急性熱性の傳染病でありまして、比較的壯年の人を侵す危險至極な疾病であります。市立駒込病院に收容した患者數は明治四十三年に約一千九百人同四十四年に一千三百人程あります、其病原體はエーベルト及ガフキー兩氏によつて發見された腸「チフス」菌であります、水中などでは自分から活潑な運動を營むのを見る事が出來ます、而して腸「チフス」患者の血液、糞便稀には喀痰或は乳汁からして腸「チフス」菌を排出し、之れが又新に他の

人の體中に入り込んで、次第に流行を起すのであります。

「チフス」菌携帶者

社會衞生の上から見て甚だ厄介なものは、所謂菌携帶者であります、即ち本病に一度罹つた人は、百人中に三人位迄、病氣が全快して自分は何等の苦痛もなく働ける樣になつて居ながら其人の大便或は小便中には永い間「チフス」菌を排出して居ます、かゝる人から排出された「チフス」菌は折あらば他の健康の人を侵さうとして常に隙を窺つてる樣なものです。尚不思議なのは自分に別に腸「チフス」を患はないにも關らず、或る機會に菌携帶者となつて居る事であります、腸「チフス」のみならず、好んで小兒を侵す「チフテリー」、虎列剌、流行性腦脊髓膜炎菌等にも矢張り携菌者があります。

傳染病の流行を仔細に考へて見ると、此菌携帶者輩が自分からも、かゝる危險人物であると云ふ事を自覺せず、人も亦こんな事とは知らず、吾々人間社會に立ち交つて、生業を營み、行樂を偕にして、其間に恐る可き病原菌は彼方此方に散布されて吾々の社會に折々慘害を惹起すのであります。

これから其實例を二ッ三ッ擧げて、携菌者が如何に危險なものであるかと云ふ事に御注意を願ひ度いと思ひます。

女中が「チフス」菌携帶者であつた例

歐米各國の調によると、一家の主婦或は女中などに割合に携菌者が多い樣です、茲に述べる問題の人は二十一年の婦人で、一八九八年の十一月から一九〇一年三月末までR氏の家庭に傭はれて勝手働をして居ました、此婦人の來た翌年の七月主人R氏が重い腸「チフス」に罹りました、秋になつてR氏の息子と其お守が二人とも亦「チフス」を患ひました。

此女中は三月限りで、暇を取つて、自分の姉の處に暫く寄食してる間に、姉と其二人の子供も「チフス」に罹り夏の末には姉の住宅附近に「チフス」の小流行が起りました、次に一九〇二年にH氏の家庭に仕込

んで、又勝手の方を手傳つて居る間に、三月に二人の朋輩が「チフス」で就牀し、其れを看護した女中も亦感染しました、一九〇三年に此女中は新に或工業家に傭はれて同じく臺所に働いで居るうちに、主人の工業家が「チフス」で世を去り、間もなく小供三人も亦「チフス」になりました。」

之れで此婦人自身も不思議な因緣と考て周圍の人も氣が付いて今度は嚴密な細菌檢査を行つた處が、果然此婦人が「チフス」菌携帶者であつて、其糞便から「チフス」菌が證明されました、要之此婦人は前後八年間に確かに二十四人に腸「チフス」を傳染させた事が明になつたのです。

果物と「チフス」菌

他の一例は「チフス」菌携帶者から貰つた、果物によつて、發病したと云ふ例でカイゼル氏の實驗したものであります。

獨逸國の或町にKと云ふ夫婦がありまして、其隣村に住居してる友人の妻君がお產をしたのでK氏の妻君が暫時看護に行つて居ました、歸る時に澤山の果物をお土產に貰つて來て、夫と一緒に食べた後、間もなく、夫が「チフス」に罹り就牀しました、調べて見ると先方のお產があつた婦人は「チフス」菌携帶者でありました、K氏は病氣が治癒した後不幸にして之れも携菌者になつたのです、其後K氏婦夫は喧嘩をして妻君はK氏に腹部を打たれて、暫時病牀に居つた間K氏から看護されましたが。其間に携菌者になつて居た夫から感染して眞の腸「チフス」に罹つたと云ふて居ます。

つまり友人の妻君が初携菌者であつて、其處から貰つた果物に「チフス」菌が附著して居た爲に、此方の夫が先「チフス」に侵され、夫も亦携菌者となつて、遂にある機會に妻君に傳染させた事になります。

牛乳と「チフス」菌

「チフス」菌は牛乳の內には好んで生活します。吾々は其性質を利用して「チフス」菌の培養試驗をする時に牛乳を材料に用ふる事がある位ですプール氏の試

驗では「チフス」菌は二三週間牛乳內に生活してるし、又「パラチフス」菌等は六十餘日も牛乳內に見られます、牛乳を澤山に用ふる國々では牛乳による「チフス」傳染が時々あります、殊に勝手働をする者パン屋などは牛乳がいつでも手もとにあるから生のまゝで飲用する事も多く、從つて「チフス」に罹る率も外の職業の者に比し著しく多數を示して居ます。カイゼル氏は最近に二六〇人の「チフス」患者を調べて六〇人は確に牛乳から感染した證據を發見したと報告しました。

又東京附近の樣に糞便を利用して作つた野菜物等は「チフス」菌の附著する機會が非常に多いからして、日常餘程注意を要します、殊に「サラダ」など作る場合は生のまゝですから中々危險も少なく有りません。

腸「チフス」を病める母の乳汁

嬰兒を哺育するには母乳が理想的のものであります、西洋諸國に比べて吾國の方遙かに母乳で、小供を育てる風の盛んなのは喜ばしい現象であります、而して其母が若し腸「チフス」に罹つた際にも、尙其乳を含ましめて宜しいか、否やと云ふ問題は極めて必要で、從つて一般に極めて明確な解決を心得て置きたいのです。

以前腸「チフス」菌の發見されなかつた時代から歐米各國の學者間には、盛んに此問題が討論されました老大家ゲルハルトは臨牀上の經驗からして母乳より嬰兒に腸「チフス」の傳染す可き事を唱道し、一方スタイチルはかゝる事なしと反駁し容易に歸著する處を知らざる有樣でありました。

吾國では明治四十三年堺高田兩學士が市立駒込病院で研究された結果腸「チフス」に罹れる母の乳汁中には「チフス」菌の存在する事が證明されました。

最近武﨑、大庭兩學士も益々研究を進められて、駒込病院入院中の乳汁分泌患者十七名を調べた結果、十三名までは乳汁の內に「チフス」菌の排泄される實例を得、其內の一人岡某と云ふ婦人の小供で生後八

ケ月になる、哺乳兒が母の乳を飲んだ爲に、眞の腸「チフス」に罹つて居つた事を報告されました。して見ると病母が乳を含ましめる事は想像のみならず事實上から極危險であると斷言してよいのです。

由來哺乳兒は腸「チフス」には割合に罹り悪いもので、ペテログラード小兒科病院の統計によると三五四〇人の小兒「チフス」患者中生後六ケ月乃至十二ケ月までの乳兒は三五人に過ぎぬのであります、併し吾國の様に主として母乳で小供を哺育する處では、其方面を精密に調べて見ると、母乳から「チフス」に感染した例は案外に多からうと思ひます故に乳汁の分泌ある婦人が腸「チフス」に罹つた場合には其乳汁は傳染力あるものと見て充分なる消毒を行ふ事が必要です、勿論嬰兒に乳を含ましめる事は絶對に止めねばなりません又腸「チフス」の診斷がつくまで哺乳して居つた場合には診斷の定まると同時に、哺乳を中止し、其後は兒の健康狀態に一層注意を深くして若し發熱、食思不振、顔貌等に異狀を認めた時は早速手當を施す事が必要です。

心臓と血液循環（一）

莊司秋次郎

心臓の役目

戸外を散歩して居りますときに、遠方から時計臺の數字が讀める或は針がわかる、又は空の一方に飛行機が豆粒のやうに小さくなつたときに未だ視えると云ふときには、私の眼は良いと云うて自慢を致します。又獵師が森や林の中で獸の靜かな足音を聽つけるときには、どうも耳が鋭いと云ふて稱嘆致します。或は又澤山物を食べた後で少しも苦しいとか、胸がつかへるとか云ふことが無ければ、實に胃が丈夫なものだと云ふて自慢致しますが、これは尤な次第である、つまり自慢をする人は、眼の物を視、耳の音を聽き、胃の食物を消化することを知つて居る、即ちこの三ッの器官の役目と働きとを大體承知

してゐるのであります。所が土方が終日鶴嘴や「シープル」を以て土を掘つたり石を運んだりして、疲勞は致しますが快い心持で晩食の膳に向ふ、又剛力などが重い荷物を負ふて峻しい山路を登つて別に息も切らずに平氣で休む、或は車夫が大急で車を牽いて駈ける、又兵隊さんが重い戰時武裝をして強行軍をやる、さう云ふときには土方は私の腕は確かなものだと云ふて誇りましやう、剛力は私の肩はしつかりしてゐると云ひ、車夫は私の脚は韋駄天にも負けぬと云ふて威張ることでありませう、又兵隊さんは吾々の肺は強健だと云ふて力むでありませう、然し何れもその自慢は正鵠を得たものとは申されません、何せなれば何れもその心臟の丈夫なことを誇た人がないからであります。

これは抑も如何なる譯でありませう、自轉車乘とか、又柔道擊劍などをやる人が、その盛な運動をした後で、私の腕はとか、私の脚はなど〻筋肉の強いことを自慢致しますが、心臟の働に就ては何とも申しません。これはつまり此等の運動には何の位心臟の働が關係して居るかを知らない、血行器の作用は如何なるものであるかと云ふことは、人體の他の器官の働きのやうに能く知られてゐないからであります。然し醫者は、總て此等の働きは、その人の心臟が健全でなければ幾ら筋骨が逞しくとも出來るものでないと云ふことを承知して居ります。

斯樣なわけで、案外に普通の人は心臟の役目は何であるか、その構造、設備は何な風になつて居るかと云ふことを御存知がないので、正常のときは未しもですが、少しく故障のあるときには、なか〱危險である、醫師が考へれば實に由々しき大事であるが本人は一向平氣で思切つた無法なことをやつて居る場合が屢〻あります、誰でも視えなくなれば眼が惡いと云ふことが分かる、聽えなくなれば耳が惡いと云ふことが知れますが、實は心臟が惡い爲に起る所の種々の關係に就ては一寸氣がつかないのであります。僅かに身體を運動しても直きに呼吸が苦しくな

る、或は老人が梯子を登るのに、以前よりも甚しく太儀になつて來たとか、若い娘さんが躁の所に腫が來たとか云ふ位のことでは、大抵の人は心臓に重大な病氣が起つて居るとか血行器に故障を生じたとは氣がつきません、然し醫師或は斯樣な心得のある人は、心臓に故障があるのではあるまいかと、原因を求めるのであります。然し又他の一方に於ては多少動悸する傾があれば、大抵の人は何か重い心臓病にでも罹つて居るやうに思ふのであります。かう云ふ風に一般に心臓の機能に就て大體の智識を缺いて居ります爲に、既に心臓の病氣が重くなり、それを止めることも治癒すことも出來なくなつてから、初めて醫師の診察を受ける人が多いのであります。

かうなりますと心臓病患者の運命は頗る哀なもので、他の臓器と異つて外に掛替がありませんので特に重大であります。例へば腎臓の病氣に致しましても、一方の腎臓が惡くなりますと、他の一方の健康な方がその代りに働きます、又左の方の肺が惡くなれば右の肺が働いて間に合はすと云ふ具合で、多數の臓器は何等かの代理をして間に合はせる仕掛がありまするが、心臓は唯一つでありますからさう云ふことは出來ないのであります。それですから血液を身體に廻してやる爲に働く所の心臓の筋肉に病氣が起つて、それが治癒らずに弱つて什舞へば、生命も共に終らなければなりません。斯う云ふわけでありますから、この掛替の無い大切な器官の設備や働に就て一通り心得て置くことは必要なことゝ思ひます、一體心臓は何んなものかと云ふ考もない人にその病氣の豫防法や、眞に心臓に故障が起つたときには如何に養生すべきかと云ふことを御話した所で致方がありません、それで以下少しく吾々の全身と心臓との關係は如何なるものであるかと云ふことに就て御話を致します、

と申した所で茲には勿論只最も大事なことと又明かなことだけを御話致しますので、先づ何か大きな電氣

仕掛の設備を致しますときに、技師が何處で電力が生ずるか、それが何う云ふ風に分配され、何う導かれるかと云ふことを説明するやうに、皆樣が遠く離れて御出になつても能く分かるやうに御話致して見度いと思ひます。

全身の血行とその中心、卽ち心臟の血液を壓出し又吸込む所のステーションは、丁度巧に出來て居る溝渠、灌水工事又は下水工事のやうなものであると申されますが、成るほどその極大體の所は、一寸そんな風に比較することも出來ますが、併し吾々の身體の内の血液循環の具合を少し立入つて考へて見ますと、この比較は餘り當らぬのであります、血液循環の事業は、人間が考出した設備とは異ひまして完全に行つてゐる限りは、極めて美妙な仕掛になつて居りまして、不思議なほど完全に行はれるのであります。若し指一本の血管の模樣でも、これを顯微鏡で見える所まで精細に模型にして、擴大して現はして見るとしましたならば、その血管の微細にして複雜なことは驚くばかりのものと成るでありませうが、斯樣な血管の網が全身到る處に擴がつて居つて絶えずその中を血液が循つて居るのであります。身體の總ての器官、例へば筋肉、腦髓、肺臟、腸と云ふやうなものが絶えずその勤めを致しますのには、それ等の器官を養ふ所の液體が絶えずその内に流通してこれを潤ほしてゐなければなりません、恰も植物に於ける土地のやうなものでありまして、植物の成長繁茂するのには、根から枝葉の先に至るまでこれを養ふ所の物質が上ぼつて行く、土地は何れの部分にもこの物質がなければならぬと同じ理でありまして、吾々が起つたり、歩つたり、走つたり、踊つたりするのは筋肉の收縮に由るのでありますが、その筋肉は只この血液循環のある御陰で以てその働を完ふすることが出來るのであります、又人間が物を考へる所の腦髓も、只血液が適當に世話をして居ればこそ考へることが出來、話すことも出來る、胃や腸もこれに由て消化作用を營むことが出

來る、吾々の感覺、知覺と云ふものも血液が皮膚や神經を絶えず養つてくれなければ出來ないことで、一言に云へば總て生物たる働を現はしますのには、全身の各部分、各細胞が正當に血液循環の助に依てその機能を維持されなければ出來ないのであります。

それですから、若し一定の場所に血液が行くのを妨げられますと、忽ちその部分に障碍が起ります。例へば腦髓の血管が一本塞がりますと、腦のその部分は直ちに機能を失つて仕舞ひまして、或は手が動かなくなり或は足が動かなくなり、或は言語を發することが出來なくなる、又眼の網膜と云ふ大切な部分に行つて居る血管が血の小さな塊などで一寸塞がりますと忽ちそれで眼が視えなくなつて仕舞ひます。又脚の太い血管に於て血液の流が止まれば、その脚は壞疽に陷つて死んで仕舞ひます。しかのみならず血液の流が止まるまでに至らずとも、多少流が妨げられたのみでも、多少の障碍が起ります、例へば腦に行く血液が不充分になりますならば、今迄向ひ合ふて話して居つた人が、見る〳〵顏色が變つて倒れるでありませう、而して全く死んだのではないかと心配される、斯樣な所から考へて見ましても、身體の到る處に、一秒間と雖も絶間なく、總ての細かい部分に至るまで、その必要品を配布し或はその不要になつた物を運去ると云ふのにはその裝置の如何に複雜なものでなければならぬかゞ分かるでありませう。この裝置は非常に巧妙な血管の網で出來てゐる溝渠裝置でありまして太い幹から段々細い枝に分れ分れて、殆ど身體の到る處に血液を配布して居るのであります。

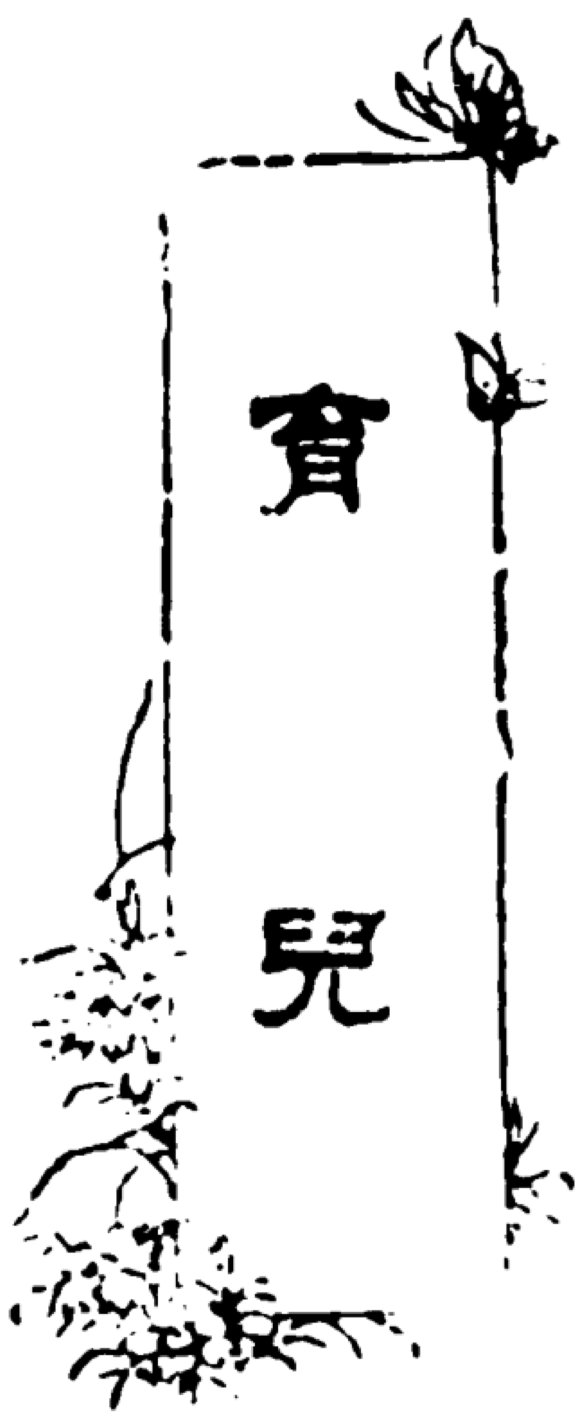
さて斯う云ふ事が解かつて見ますと、自然面白い問題が澤山起つて參ります、卽ちこの榮養液は何んな風に身體の內を廻るか、又この液體、卽ち血液は如何なる性質のものであるか、又何んな速さで臟器の內を廻るか、又立つて居るときと坐つて居るときと臥て居るときとでは循環の具合が變らなければな

らぬわけであるが、何うして血行が平等に保たるゝか、心臓が健康であれば何う云ふ風か又心臓が病氣になれば如何なることが現はれて來るかと云ふやうな種々の問題が起つて來るわけであります。

總て此等の問題に答へますのには、更に循環器の設備、特に心臓の仕掛に就て少しく研究する必要があります。それで次章に於て、この循環器の設備は何んな具合に出來て居るかと云ふことを詮索して見ようと思ひます。

(以下次號)

育兒



乳兒榮養看護の要則

莊司秋次郎

これは獨逸國サツクセンの乳兒保護本部で出した注意書であります。國柄が異りますから多少我國に於ては加減して考ふべき點もありませうが、その根本に至ては今日の最も進歩した醫學上の知識に基いたもので、頗る要領を得た有益な注意書であります、依て全部そのまゝ譯して御參考に供します。

哺乳兒には母乳に限る

(一)凡て健康なお母さんは、極貧窮な人でも、小兒を傍に置き得る限りは、自分の乳を與へなければなりません、實際これが他の總ての榮養品よりも良くて廉價いものであります。

若し乳嘴が引込むで居るか著しく小さいときには、清潔にした後で五分間ほど所謂「ミルヒプムペ」(乳汁吸出唧筒)で引出すやうにするが宜しい。その仕方は產婆さんが敎へてくれます。只少數の婦人は到底哺乳することの出來ないほど發育の惡い乳房と不完全な乳嘴を有てゐるものです。既に妊娠中に、少くとも分娩の八週間位前から、微溫湯と石鹼で每日乳房と乳嘴を清潔にするやうにしなければなりません。

凡てお母さんは、その娘さん達が年頃になりました後には、乳房と乳嘴を清潔にして大切にするやうに躾なければなりません。

哺乳と云ふことは是非必要なことであります、牛乳罎で育てる小兒は、滿一年になるまでに母乳兒よりも六倍乃至七倍も多く死亡致します。又牛乳で育てる小兒は、母乳で育てる小兒なれば罹らずにすむ種々の病氣に罹り、大抵始終弱くて病身がちなものであります。

母親は可成九箇月間哺乳する事

(二)健康な小兒は可成九個月哺乳しなければなりません。五月から八月まで暑い季節には決して離乳を行ふてはなりません、出來ることならば秋になるまで延ばすやうにした方が宜しい、牛乳は夏分には危險な吐瀉病を起し易いからであります。

且又一二週間或は一二個月位母乳を暫時與へますと初から牛乳罎をあてがふよりも能く育つものであります。

お母さんの乳で育てられない多數の小兒は、生れて一週間内に死亡し或はこの間に人工榮養に由て死ぬべき種を取込むのであります。

只止むを得ぬ場合にのみ牛乳で補ふ事

(三)お母さんの乳が足りない或はお母さんが暫時外出する爲に、その時毎に乳を與へ兼ぬると云ふやうな場合には、一日に一二回母乳の代りに牛乳を與へます。然し乳の出る限りは決して哺乳を斷つてはなりません。

小兒が自ら斷乳するのを防ぎますのには、少くとも乳房につける三時間前迄には決して牛乳を與へてはなりません。さうすれば小兒は強く吮ふて乳房が空になるまで飲むものであります。若し小兒が餘り乳房を欲しがらず或は自分で乳を絕つやうになつたことに氣がつきましたならば、これは病氣であるから醫師の許につれて行かなければなりません、或は餘り度々乳を飲むだか又は餘り澤山榮養を取り過ぎたのですから、その時には控目にしなければなりませ

ん。

何れの母も「祖國婦人會」で相談と救助を得

(四)又日傭取の爲に、外で働かなければならぬ母親も、總て産褥の間及び疾病金庫で産褥婦補助金を支給してくれる間は全くその小兒を哺乳し得る筈であります、後には少くとも朝、晝、晩は乳を與へることが出來る筈であります。

非常に困難であるにも拘らず、その兒を養ひ、健康に育てやうと云ふ忠實な母親は、今日では殆ど到る處で、無難に離乳し得るに至るまで、その兒を世話することが出來ます、若し相談や救助が必要ならばデル、フアーテルレンチッシエ、フラウエンフェルアイン(祖國婦人協會)地方部の會頭夫人、或は醫師、その産婆、牧師、市町村長等に申出らるゝが宜い。

[譯者曰、我國の御婦人方は未だ自分の兒に自分の乳を與へることが出來ないと云ふほどまで逼迫してはゐないやうですが、間もなく此の狀態がさしせまつて來ることゝ思ひます。然し幸か不幸か我國にはまだ斯様に妊婦、産婦を勞はり、哺乳兒の榮養看護等に保護や救助を與へてくれる制度もなければ、公私の團體も餘りないやうですが、そろ〳〵用心をして置かなければならぬことゝ思ひます。]

虛弱な母も健康に害なく哺乳が出來る

(五)只醫師の勸告に依り、又は母が生命危篤の病氣のときには哺乳を廢し或は早く止めても宜しいが、難産の後或は衰弱の際にも哺乳して差支ない、哺乳すべきものであります。何故ならば小兒は生れた最初の日には、若し與へるならば極僅かのお湯を與へれば宜しい、翌日は二時間目に極少量(茶匙に一杯)づゝ乳を與へれば澤山であります、それで小兒が澤山乳を要するやうになるまでには母が恢復する暇があるからであります。

弱い貧血して居る若い婦人でも、その健康の爲には心配せずに哺乳して差支ありません。若し牛乳で育

てゝゐる小兒が病氣にでもなれば、その看護の爲には、自分で哺乳して、それで健康を保つて行くより十層倍も骨を折り、安靜を犧牲にしなければならなくなります。

乳汁は初は乳房の內で徐々に出來る何れの小兒も遂には乳を吸ふことを覺える

(六)分娩の後一週間たつて見なければ、お母さんの乳が充分であると云ふことは確かには申されません。二日目からは、小兒がお腹が空いて眼を醒ます度每に乳房を含ませますさうすれば漸次乳を吸出すようになります。初の一週間は乳が不充分で、小兒が吸ふに骨が折れるやうでも別に害はありません、止むを得ぬ場合には渴を慰する爲めに茴香茶劑或は「カミルレ」茶を少量與へても宜しう御座います。又小さな扁平な乳嘴でも、少し我慢をして吸はすやうにすれば、初生兒は吸ひ方を覺えるものであります。若し小兒が何かの原因で乳の吸ひ方が餘り弱いときには、强く吸ひ始めるまで、最初の間は乳を榨り出し或は乳汁吸出喞筒で以て吸出して、匙で與へなければなりません。

授乳は母の健康を維持するものである

(七)授乳は種々の關係からして母の健康を催進する特に內部の器官を普通の狀態に復す效のあるものであります。多數の婦人病、非常に恐れられる乳癌さへも、授乳した婦人には他の人よりも遙に稀であります。婦人が授乳致して居ります間は、月經は全く無いか或は分娩後五週間乃至六週間に只一回、若しくは長い間を置いて時々ある位のものであります。然し月經が始まつたからと云ふて、決して小兒を離す理由とはなりません、縱令婦人が自分で再び妊娠したやうだと思ひましても、確かに妊娠と定まるまでは乳を與へて差支ありません、夏の暑い時分には、妊娠と分かりましても續けて授乳しなければなりません、これに由て害の起ることはありません。規則正しく授乳することは、新に妊娠するのを自然

に防ぐやうになるものでありまして、長い間專ら自分で授乳する婦人は、これに由て餘り早く續けざまに妊娠することを免がれ、その爲に何時までも若やかで、早く年をとることがありません。

授乳をして居ります間に、乳房に裂傷の出來ることがありまして、これは非常に痛いものでありますが、このときには「グリセリン」に浸した清潔な布片で被ふて置くのが一番良い、然しそれで治癒りませんときには產婆か醫師に診てもらはなければなりません、さうすれば大抵授乳を止めずに治癒してもらへるものであります。

授乳婦は他の健康な婦人と同樣、自然的に生活し自然的に食事すべき事

(八)授乳するお母さんは、何でも平素慣れて居つたものを食べて、飲むで宜しいのであります、麥酒は決して乳を澤山出す藥ではありません(譯者註。獨逸では老若男女を問はず平素麥酒を飲む習慣がありまして、俗間では麥酒を飲めば能く乳が出るとか、小兒には牛乳に麥酒を混ぜて飲ませると能く肥るなどゝ申して居りますので、それを戒めたのであります)。穀粉「ソップ」牛乳及びこれに類したものは結構です、然しこれも食べ飽きぬほどに或は脂肪が著いて肥胖つて醜くならぬほどに用ふべきであります。授乳そのものは決して身體を太くするものでもなければ醜くするものでもありません。

身體の運動及び仕事は、何も爲ないで居るよりも授乳するお母さんの爲に良い。興奮や心配に由て乳が少くもならねば小兒の爲に害になるものでもありません。斯樣なことを申しますのは、理由の分からぬ迷信であります。

授乳する婦人は狹い「ミーデル」(女の着る袖なし襦袢)で乳房を壓つけ或は汗の出るほど厚著をしてはいけません。その爲に特に乳嘴が軟かになつて過敏になります。毎日冷水で乳房を洗ふのは頗る適當なことであります。頑固に秘結するときには野菜と果物を澤山食べてこれを除き或は豫防するのが一番宜

い方法であります。

母が自分或は小兒の爲に心配になることのある時は時期を失せず醫師に相談する事

（九）總て母が自分の健康に就て或はその小兒の健康に就て心配になる事のあるときには、醫師に相談するやうにしなければなりません。醫師の勸告は、隣のおかみさんや、叔母さん又はお祖母さんの勸告よりも價値があるものです。何れのお母さんも、病氣を豫防するのは、病氣を治すよりも容易い、又手後れになつた病氣は往々治らないものであると云ふことを常に考へなければなりません。貧窮なお母さんでも、只索しさへすれば到る處に醫師の相談を受けることが出來ます、即ち疾病金庫の醫師でも、救療醫でも乃至は病院の施療診察時間でも、又は保護所或は相談所と云ふやうな所もありますし、尚ほ何れの醫師でも、若し謙遜に事情を打あけて賴めば、その好意と母親たる心配と慈愛とを汲取つて、必ず世話をしてくれるに相違ありません。

小兒は二十四時内に五回乃至六回より屢次哺乳せざる事

（十）小兒が三時間乃至四時間毎に哺乳され、それより屢々乳を飲まず、直ちに一定の秩序に慣れますならば、これは母の爲にも小兒の爲にも結構なことであります。二十四時間内に五回せい〳〵六回の食事なれば、薄弱い小兒でも強健な小兒にでも充分であります。後になつて三個月よりは夜間の哺乳は廢すやうに慣らします。

若し一方の乳房で間に合ひませんときには、一方を飲み切つた後に他の一方を與へるやうに致します。若し乳房がすつかり空になりませんと、漸次乳の分量が少なくなるものであります。

十五分より長く小兒に乳房を吸はせてはいけません三十分乃至一時間も吸はせましても、そう多く飲むものではありません、而して長い間吸はせますと、只それが爲に乳嘴が過敏になつて創傷が出來る位の

ものであります。（以下次號）

痲疹の話

醫學士　宇都野研

一般に人類は痲疹の感受性が極めて強いものでありますから誰れも一生に一度はこの病に罹ります、殊に小兒期に於て大部分この病を經過します、從つて痲疹は小兒病の觀を呈するのであります、但し小兒期と申しましても幼稚園に通ふ位の年齡又は其より稍幼ない年齡に侵される事が最も多い樣でありまして、兄弟姉妹の多くある家では大抵幼稚園年齡の小兒が家庭に痲疹を輸入するのが常例であつて、他の兄弟がこれに感染し前後して痲疹に罹る事を往々見受けるのであります。季節の影響はあまりない樣であるけれども、初春の頃流行する事が最も多い樣であります。一度この病氣に罹れば疫拂をしたも同樣で二度罹ると云ふ事は極めて稀と申してよろしい。

痲疹の經過は餘程型に嵌つたものでありまして、感染してから九日間は全く健康な狀態を維持して居りますが、十日目になると熱が出て氣分が惡く凡三日間は一高一低の熱が續き、其間は日を追ふて咳嗽嚔嚏がうるさく出で、眼からは涙と眼脂との分泌が增し血走つて來て羞明しくなつて來ます、痲疹といふ印象が漸く深くなつて來るのは此頃からであります。

熱が出てから四日目になりますと熱が急に昇り四十度前後になる、而して頸部顏面等に蚤の刺した位の小さな紅い斑點が彼處此處に散在して顯はれて來ます、この斑點は翌日になりますと大さも痲實大から豌豆大位になり、形は不規則で多少皮膚の表面から隆起くなり、殆ど全身に擴がり發疹してから三日目は最も隆盛の時代で、發疹物は鮮紅色を呈し、所々癒合して花瓣狀を示して居りますが四日目になると熱が下降して、疹の色も鮮紅色を失ひ銅色を帶びて來ます、この發疹期には前に述べた樣な容體が一層

重くなり、機嫌が甚だ惡く、少し年長の小兒は頭痛を訴へ又幼兒は熱の高いために譫語を言ふ樣な事もあります、食慾は著しく減じて殆ど食餌を食べない樣になり、渇のために湯茶を請求するに過ぎない樣な有樣であります、熱が下ると總ての容體が輕くなりますが、食慾は急には復舊しない事が往々あります、この時期になると發疹物のあつた處に色素が殘り薄汚ない色が麻疹の昔を語つて居ます、この斑點は一週間から二週間又はそれ以上を經過して漸く消退します、而して其處の皮膚が極細かく雲脂の樣に剝けて來ます。

これで麻疹の道中記は終りを告げたのでありますがもつと極々輕くすむ事もあり、又稀には發疹すると共に熱が著しく高くなり、腦症を起して斃れる樣な事もある、一般に體質の惡い小兒、病身な者、結核の有る小兒等は麻疹が重く經過するために不測の禍を釀す事があります、然し麻疹で不幸な結果を見るのは大部分餘病のためであります。

麻疹の餘病の中で一番多いのは氣管枝加答兒、毛細氣管枝炎、氣管枝肺炎でありまして仲々恐るべきものであります、殊に肺炎のために生命を奪はれる事が最も多い、幸ひ治るにしても長日月を要する事が往々あります、未だ發疹せぬ中に肺炎が起りますと發疹が著明に顯はれて來ません、又發疹期に起ると疹の色が惡くなり、不著明になつて來る、これは血液の循環が不良になつたのを意味するので有つて危險なる徵候です、古來麻疹の内攻と云つて恐れられるのは斯うした事實が背後に潛んで居るためでありませう。

麻疹の經過中には、結核、實扶的里等に對して抵抗力が著しく減じます、それ故結核に感染して居ても別に故障のなかつた小兒が麻疹に罹ると、結核が虚に乘じて種々の結核性の病氣を起す事があります例へば麻疹後に肋膜炎であるとか、腦膜炎で有るとか厭ふべき病氣が起つて來たり、淋巴腺などが腫れて熱が何時までも取れぬ事があります、麻疹の經過

中に起る實扶的里は多くは所謂喉頭實扶的里でありまして、氣管の方へ下つて行く傾きが有つて餘程難物であります。

昔から麻疹は命定めと申しますのは、斯うした恐るべき餘病が背後に控へて居るからでありませう。

麻疹の傳染るのは、咳嗽や噴嚏の盛んな時代即ち發疹前一兩日から發疹して居る間でありまして、この時期に未だ麻疹に罹つた事のない小兒が病兒に接近しますと多くは唯の一度でも感染します、然し病兒の室に出入する人が間接に病氣を他の小兒に感染す事は殆どない樣に云はれて居ります、下熱後は急に傳染力が減り四五日を經過すれば殆ど危險のない樣になります、從つて麻疹患者の寢具や病室を消毒する必要はありません、剝けた皮に傳染力があると云ふ說も有るけれどもこの方法で感染る事は極々稀れな事と思はれます、麻疹はどうせ一度するものであるからさまで豫防する必要もない樣であるけれども滿二歲以下の小兒には比較的死亡率が多く又前に述べた通り病身の者體質の惡い小兒、結核の疑のある小兒などは麻疹が重く經過し、若し幸にして通りぬけても甚だしく虛弱となつたり、又は熱などの取れぬ事があるから麻疹患者に近けぬ樣に注意せねばなりません。

麻疹の手當は先づ第一は長く寢て居るのが緊要であります、型通りに經過した場合でも下熱後一週間乃至十日は就褥させるがよろしい、餘病の有る場合には勿論其全癒する迄牀に就いて居なくてはなりません、外出させるのは季節の關係も勿論ありますが下熱後十日乃至二週間を經過してからでなくては身體に障ります。

其他の手當では主なる事は眼、口、鼻等の粘膜を清潔ならしむる事でありますがこれは醫師の指圖を受けてすべきであります。

室は凡華氏の五十度位にして空氣の流通の妨げられない樣に注意せねばなりません。

麻疹中は呼吸器の病氣に感染し易い故肺に疑ひのあ

る人などは病室に入れぬ樣にすべきであります。食物は流動食又は半流動食即ち牛乳、重湯、粥等を與へます、麻疹の經過中腸胃の症狀が強い事があります、其際には勿論食餌に一層の注意を拂はねばなりません。

虚弱な小兒、又は病後熱の取れぬ場合には暖かい地方に轉地させるがよろしい。

厚著と薄著

醫學士　原田達三

これは昨三年十月大阪兒童學會大會の席上に於ける演說で、去る一月の兒童研究に掲載されたものですが、有益なお話と思ひますから本欄に轉載さしてもらうことに致しました。(編者)

私は厚著と薄著と云ふことに就てお話しを致します。それは著物を厚く著る事薄く著る事でありまして、今日は其中で最も大切なことだけを申し上げます。だん〱寒くなりますと子供の呼吸器病、たとへば肺炎等が澤山に殖えて參ります。そこで家庭では風引きを恐れまして、やゝもすると子供に厚著をさせる傾きが御座います。私の最近に見ました一例は生後一ヶ月餘の子供ですが、「ネル」の襦袢を二枚著せ、其間に眞綿を入れ、其上に綿入れを二枚著せ又其上から袖なしを著せ、襁褓をきせ、襁褓は木綿を下にして「ネル」で卷き、又綿入れの襁褓をきせ、著物の上から毛布でまき、其上から又布團で熨斗の樣に包みましてそれをおぶつて參りました。その子供を著物の紐を解いて見ますと、汗が澤山に出て「ネル」の下に流れて居まして却て風邪を引かす樣になつて居ました。そこで母親にあまり厚著であるから、も少し薄著になさいと申しますと、その母親はそれではどの位が普通ですかと尋ねました。この母親の質問は當然のことでありまして、少しく子供の事に注意なさる方に必ず起るべき疑問だと存じます。そこで私はこの標準について簡單に御話しいたしませう。實は是に就てまだ確な標準は定まつては居りませんが、日

本でも外國でも今それを研究しつゝあります。私も昨年からしらべて居りますが、この標準をきめますには子供の體質によつても異りますし、綿入にしても厚い薄いがありますし、日によつて氣溫もちがひますから、明確に定めることは非常に困難であります。

人間が著物を著て、恰度暑くもなく寒くもないよい心地であると云ふ溫度をしらべましたのは佛人モーレルと云ふ人であります。そして其溫度を生理的の零點或は正溫又は中溫と名づけました。其方法は湯に入れ、其人の恰度よい湯の溫度をはかり、それを其人の中溫といたしました。其溫度は大人に於て攝氏三十一度乃至三十二度でありますが、これは佛人のでありますから日本人はこれとはちがひます。平井博士は日本人(大人)の中溫をやはり湯によつてしらべましたが、日本人は暑湯すきで攝氏四十三度内外で、殊に昔から江戸子は大變暑い湯がすきですがそんな人の好む湯の溫度は攝氏の五十度以上ださうであります。子供にはどの位が中溫であるかと云ひますと攝氏四十一度乃至四十二度の湯が適當して居るさうです。之は裸體でお湯に入れたそのお湯の溫度でありまして、著物を著た場合にはどうかと云ふに、これはだれも同じと云ふわけには參りません。

そこで私は平井先生の用ゐられた方法と同じ方法、卽ち木の筒のまはりに穴をあけその筒の中へ留點寒暖計（水銀が昇れば下らぬもの）を入れたものを、脊の皮膚と肌著或は襯衣との間に三十分程入れて、そのまはりの空氣の溫度をはかりました。そして當時の子供の呼吸、脈搏、顏貌、發汗の有無、機嫌の良否、室溫等を參考しまして、凡そ其中溫と見做すべき溫度を測定いたしました。斯樣にいたしますと小さい子供程中溫が高うございます。外國人は足や股でもはかつてありますが、日本人は著物の都合が悪いので、外部の空氣の溫度になり易い爲め、脊ではかるのが一番よろしう御座いま[illegible]調べました子供の數はまだ甚だ少うございますので．平井先

生の調べられました結果と、私の調べました結果とを一緒にして、唯御參考迄に申上げますと。

初生兒	攝氏	三十五度五分
六ヶ月迄	同	三十四度
六ヶ月以上一年迄	同	三十三度二分
一年より二年まで	同	三十二度五分
三年より五年迄	同	三十一度―三十二度
七年より十年まで	同	二十九度五分―三十度
十年より十五年迄	同	廿五度五分―廿九度五分

この表はまだ確定したものとは申されませんが、併し著物を何枚著せましてもこの表の溫度附近でありましたならば、甚だしい厚著ではなからうかと思ひます。モーレルは夏を除けば中溫は春秋冬とも同樣であると申して居ります。

まだ材料も少く、從て多少異論の餘地ある私の結果を、皆樣に御目にかける事はやゝ早計の嫌ひはありますが、是によりて皆樣が多くの機會に於て兒童の厚著、薄著を定むる標準となるべき中溫を測定せられて、兒童衞生上大切な此事の一日も早く確定し、從て廣く實地上に應用せられん事を切望致します。

家庭衞生

齒痛と耳痛の卽治法

疼痛は何處に在つても辛いものであるが、その中でも最も屢々人の經驗する疼痛で、而かも堪へ難いものは齒痛と耳痛である、劇しい時には實に氣が變になるほど惡く痛いものである、而して容易に止まない。それでこれが爲には古來種々の禁厭や樣々の鎭痛法があるが、禁厭は固より利くことが稀である、鎭痛法も冷やすとか溫めるとか、壓へるとか撫でるとかする外には、痲醉劑を用ゆるのであるが、これは素人療治には甚だ危險である。そこで玆に一つ齒

痛及び耳痛に對する姑息療法で比較的危險の少ない妙法を傳授する。これは決して醫者に罹る必要はないとか、齒科醫や耳鼻咽喉科醫の診察治療を受ける必要がないと云ふのではない、殊に耳の痛の如きは隨分危險な病氣が多いから、決して素人療治をして一時痛を止めて安心する譯には行かぬ。只醫者が居らぬ處、甚しい片田舍とか山の中などに住むで居るものが、齒が痛み、耳が痛むで何とも仕方がない、何うか痛を輕くして暫時凌ぐ工夫がなからうかと云ふやうな場合に應用すべき方法である。

この方法は墺太利の軍醫のシユワルツと云ふ人が賞用し始めた方法で、それも偶然の事から發見したのであるが、軍醫だけに直ちに軍隊に於て應用するに便利だと考へた、卽ち野戰に於ては齒が痛いと云ふても何時でも直ぐに齒を拔くことは六ケしい、耳の內に膿腫が出來て烈しく痛む場合にも、直ぐ切開することが困難である、且つ一寸そんな暇はないと云ふ場合が多いから、斯う云ふ場合に、應用するに良い方法だと云ふて發表したのである。讀者も只その積りで試みられんことを希望するのである。

その方法と云ふのは、二十瓦入りほどの小さな罎に「エーテル」製芥子油を少し入れて、その罎の口を鼻の孔の下に持て行く、而して眼を閉ぢ、口を塞ぎ、尙ほ一方の鼻を輕く壓して、一回嗅ぐのである、さうすると忽ち顏が赤くなつて淚がこぼれて、一寸呼吸が止まる、隨分烈しい刺戟を覺えるが、然し殆どこれと同時に今までの猛烈な齒痛或は耳痛が止むのである、而してその效能は、時に依て異るが大抵二三時間は續く、但しこれを度々反復しては害があるから氣をつけなければならぬ、效能は卽坐に現れる。

只注意しなければならぬことは、この芥子油と云ふものは甚しく焮衝を起し易い、又腐蝕性が强いから少しでも皮膚や粘膜に著けてはならぬ、嗅入するときにも決して罎の口を鼻の孔に入れて嗅いだりしては大變である、必ず鼻の孔より少し離して嗅ぐやうにしなければならぬ。それでシユワルツ氏はその危

険を避ける爲めに、約二十瓦内容の罎の中に五瓦ほど芥子油を入れて用うるが宜しいと云ふて居るが更に少なくて足りる、芥子油の臭がツーンと一度鼻の内に來れば澤山であるから、なるべく危険のないやうに罎の底の方に少し有れば宜しいのである、繰返して注意するが、芥子油は決して、少しでも粘膜や皮膚に飛散らぬやうに氣をつけねばならぬ。而してこれで一時疼痛が止まつたからと云ふて、病氣の原因が去つたわけでも、治癒つたわけでもない、只痛いと云ふ感じが無くなつたのに過ぎぬから、その痛の止まつてゐる間になるべく早く醫師の診察治療を受けるやうにしなければならぬ。

餅は不消化物なるか

我邦では大分昔から餅を製らへまして、御正月は勿論のこと、田舎では何ぞ祭とか御祝とか云へば必ず餅を搗くのでありますが、近來衛生思想が少しく發達して來た爲でありませうか、餅は不消化で宜しくないと云ふ批難の聲を屢々聞きます。餅は實際不消化の物でありませうか。私は餅は不消化のものでない。普通の粳の飯よりは却て消化が良い、誠に結構なものだと信じて居ります、これは決して私が餅好きな爲に餅を褒める譯ではありませぬ。何より證據人工消化試驗の成績を見れば明かなことで、粳と糯との消化の階級として、その澱粉が糖化される分量を調べて見ますると、二時間の中に粳は二六・九九二%、糯の方は三三・三八五%だけ糖化される、即ち糯の方が粳よりも六・三九三%ほど多く糖化されることになつて居ります。即ち糯は粳よりも消化し易いと云ふことは分かります。

然るにこの糯を蒸して搗た所の餅が不消化であると云ふやうな批難は何うして起つたかと考へて見ますのに、實際餅を食べた後では、普通の御飯の時のやうに御腹が空かない、又どうかすると胃腸を害することが往々あります。斯様な所から不消化物と云

ふ說が出たものと思はれますが、これは餅といふものゝ性質も食方も顧みずに身分の不注意より招く惡結果を咎めるのであつて、決して餅の罪ではありませぬ。

餅を食たときは普通の御飯のときよりも御腹の空き方が遲いと云ふのは、同じく三椀の餅でも、飯よりは遙かにその實質が多いから、これは當然のことで、直ちに消化が惡いからと云ふことは出來ませぬ、獸肉が魚肉よりも御腹の空き方が遲いから魚肉よりも不消化であると一概に斷定することが出來ないと同樣であります。併しこゝが即ち餅を咎める一つの理由になるのであります。即ち餅と云ふものは飯に較べれば非常に緻密で、一切でも一椀の飯に當るほど澤山に澱粉がある、それを只外觀上から見て、平生三椀づゝ御飯を食べて居るから同じく三椀食べる、殊に珍らしいからおたちをして五椀食べる、斯うなれば多少胃を煩はすに至るも別に不思議はない譯である。

それから今も申します通り、餅は質が緻密でありますから、充分咀嚼して唾液を混ずることが困難である、次に胃に到つても消化液が内部まで浸込むことが困難で、餅の塊の外側の方から少しづゝ溶かして行かなければなりませぬ、斯ういふ事情の爲に多少消化時間が長くかゝります、これも消化が惡いと云はるゝ理由でありますが、これも餅そのものが不消化と云ふ譯ではない、矢張食べ方が惡いのであります。充分咀嚼して、小さくして嚥込めば早く消化する、尙ほ餅の後で澱粉を溶かす「チヤスターゼ」のやうなものを飲めば直ぐ溶けて、容易に消化せしめることが出來ます。この意味で、從來餅のときに大根卸を食べる習慣が田舍にありますが頗る適當な獻立であると思ふ。

右の如き理由に依て私は、餅の不消化物でない却て普通の御飯よりも消化し易い結構な食品であることを主張致します。特にその小い塊でも多量の澱粉を含み、表面が少しく固まれば淸潔で腐敗するこ

ともなく、何時までも持つと云ふ點は、辨當又は携帶口糧として最も適當なものと思ひます。只前に述ぶる通り、その量を誤らぬやうに、又充分咀嚼することが肝要である、これを承知して居るならば、決して餅が不消化物であるなどと云ふ愚論に迷はされることはあるまいと思ひます。

御産の時に入用の品々

少し心掛の良い人は、御産の時に必要な品は自分でも常識でもつて大抵分かるし、又經驗ある人に聞いて置けば略ぼ揃へることが出來ますが、それでも醫者や産婆から云ひますと、是非備へてあるべき筈の物が備へてないので、一寸困るやうなことが往々あります。それで稍完全と云ふ程度に普通の家庭で用意すべき産時の入用品を數へ擧げて見やうと思ひます、その中には無論その家に依り、その時の場合に依て特別に必要のない品もありませうが、先づ普通整へて置きたいものを記して見ますならば、

一、小蒲團二枚。大きな坐蒲團のやうに造つて、裏には油紙を附けて置く。

これは御産が始まる時に、普通の蒲團の上に置いて、それを汚さぬやうにし、御産が終れば取のけて又別の物に換へるやうにするのである。

二、木綿で覆をした毛布。これは御産が始まると重い掛蒲團では兎角産婦も産婆も不便を感ずるから、成るべく輕く邪魔にならぬやうに腹から上を覆ふ爲である。

三、油紙數枚。御産の時には、血液や水や藥などで周圍が汚れたり濡れたりするから、或は蒲團の上に敷き、又は金盥とか膿盆とか、その他一度使つた機械や濡れたものを一寸置く爲にする色々の便利があるから四五枚も用意して置くが宜しい。

四、「ガーゼ」及び脱脂綿。これは隨分使ふから、「ガーゼ」は二三反脱脂綿も三、四「ポンド」は御

産間近になつたならば消毒して置かなければならぬ。それから晒木綿を一二反、これは分娩が終ると直ぐ腹を緊るとか、其他種々の事に使はれる。

五、差込便器。これは御産の時ばかりでなく、産褥に移つても暫く必要な品で是非備へて置かなければならぬ。

六、「タオル」數枚。手を拭き、又赤坊を一寸包む等種々用がある。

七、瀬戸引金盥數個、産婆や醫師が幾度も手を充分に洗ふことの出來るやうに、數の多い方が宜しい、せめて二個は是非備へて置かなければならぬ。

八、「イルリガートル」。藥液を入れて洗滌するに用ひる、場合に依ては、その嘴管だけを取換へて灌腸をするのにも用ひる。

九、石鹸。

十、湯「タンポ」。赤坊の臥牀を温めるに用あり、足の方と兩側に置く爲に三個用意して置く。

十一、急須。産婦に水、葡萄酒、藥等を飲ませるに必要がある。

十二、胞衣入れ。「バケツ」。

十三、蠟燭。御産は夜多く、電燈も瓦斯燈も洋燈も故障が起つて急に間に合はぬやうなことがあるから用心をして置く必要がある。

十四、藥品としては、葡萄酒、「アルコール」、硼酸、「オレーフ」油位あれば先づ結構としなければならぬ。

十五、最後に忘れることもあるまいが、湯を充分に沸かして置くこと。赤坊に湯をつかはせるのに盥も入用である。

十六、産婆も、夜間、特に冬の夜はなか／＼辛いものであると云ふことを思ひやつて、温いものを御馳走する位のことは周圍の者が氣をつける必要がある。

人生の禍根

日本結核豫防協會にては標題の如き小冊子を編纂し結核豫防撲滅の一法として頒布せられましたが、肺結核の如何なる病氣であるか、又その豫防法は如何にすべきかと云ふことが誠に平易に能く說明されて居りますので、左に轉載して會員諸姉に御頒ち致します。

一、肺結核とは何んな病氣ですか

肺結核は慢性の傳染病で昔から肺病肺勞又は勞症抔と稱へられた病氣です、凡そ人には種々樣々な病氣がありますが、其の中で最も汎く、蔓延つて最も多く人の命を奪ものは實に此の肺結核です、肺結核ほど人生の禍をなすものは外にはありますまい。

イ、恐るべき肺結核！

日本では肺結核のために死ぬものが、年々八萬人餘もありますから、現在此の病氣に罹つて苦しんで居る患者は、數十萬人ある筈です、殊に最も血氣さかんな十五歲以上三十歲までの時代の人の總死亡數のうち、其の三分の一は肺結核のためとは、實に驚くの外ありません。又陸海軍の現役兵のごとき、日本全國から最も強壯い體格のもののみを拔擢だ兵士ですらも、其の總死亡數のおよそ五分の一は、此の肺結核であります、是等の事實から考へて見ても、肺結核は何れほど恐ろしい病氣であるかがお解りになりませう。

ロ、肺結核は傳染る病氣です

總て結核の病氣をおこすには、何か其の原因となるものが無ければなりません、夫れは何んであるかと云ふに、結核菌と名づくる有機體で、肉眼では迚も見ることの出來ない、極めて微細いかたちのものであります。此黴菌が肺に附いたのを肺結核と申すのです。

肺結核も矢張り此の結核菌が原因となるので、肺結核患者の吐きだした一と塊の痰のうちには、幾百萬と云ふ結核菌が、ウジヤ／＼と群つて居ます、肺結

核が到るところに汎く蔓延つて居るのも、主として患者の吐きだした痰から來るのです、痰の始末が惡いと、何時か夫れが乾いて無數の粉末になりますが乾いて粉末になつても、矢張り結核菌は其のうちに生きて居ます、此の粉末は塵埃となつて空氣中に飛びますから、人が若し斯樣な惡い空氣を吸込むとき傳染つて肺結核になるのであります。

然し傳染る徑路をたづねますと、唯是ればかりでありません、肺結核患者が咳嗽をするとき、結核菌の居る無數の小さな雫が、霧を吹くやうに口の外へ飛散ります、若し其の傍に居る人が之れを吸込んだら矢張り傳染るのであります、また肺結核患者の痰のついた、夜具布團とか、衣類とか、或はハンケチ、書籍、筆、煙管、盃、其他患者の用ゐた器具類からも傳染ることがあります。

ハ、肺結核は癒る病氣です

肺結核は、斯樣に恐ろしい病氣ではありますが、之れに罹らぬやう豫防の出來る方法も、明に解つて居るし、假令また不幸にして此の病氣に罹つても、最早今日では治療が屆いて殊の外多く癒るやうになりました、夫れ故肺結核は癒らない病氣だと申したのは、未だ今日程醫學の進まない時代のことです。

此の病氣を親が病むと、其の子がまた病むものが多いところから、昔は遺傳だと申したものです、然し之れは全く間違つた話で、決して遺傳ではなく、悉く皆傳染つたのであることが、確に解つて參りました、ですから親が肺結核でも、其の子が必ず親の系統を引いて此の病氣に罹ると云ふ譯はありません、唯肺結核に罹つた親の身體は虛弱のでありますから、其の弱い體の質が子に傳はるのは據ないことです、それで肺結核の親に出來た子でも、嚴重に豫防法を行へば、無論罹らずに濟む譯です。

一體結核病は獨り肺臟のみに限らず、身體のうちなら處きらはず襲ふ病氣ですが、其のうちで一番多くかゝるのは肺臟です、肺臟の結核にかゝつたのが肺結核即ち肺病で色々の結核病の中一番多いのは此病

氣です。

二、肺結核の豫防法

肺結核には、何人でも冒されやすいものですが、次ぎに記すところの事柄を能く注意て守れば、傳染のを豫防ぐことが出來ます。

イ、傳染を避くる事

たとへ如何に恐るべき肺結核でも、其の病毒さへ無ければ決して病氣になるものではありません、夫れですから傳染のを避けるには、結核の病毒に觸れないのが一番です、扨剛うするには何うしたら宜いでせうか、即ち何人でも守らなければならぬ注意は左に示す通りであります。

○總て咳嗽をする人と話しをするときは四尺以上の間をへだてゝなさい、此の位の間を置けば、假令患者が咳嗽をして、唾液が飛でも其の雫が自分の體にかゝるやうなことはなく、先づ安全であります。

○夫れから肺結核の人と一緒に住むことは、成るべく避けねばなりません、據なく一家のうちに一緒に住んでも、室を別になさい、殊に寢室は尚更別にしないといけません。

○肺結核患者の用ゐた寢具とか、衣類とか、喫茶碗、煙管其の他飮食用の器具は他の人の分と別々にして置き、決して一緒に用ゐてはなりません、附ういふ譯ですから、他人の使つた毛布や鉛筆等の穗尖を舐めたり、或は酒の席で盃を交換したり、他人の煙管、笛、「ハモニカ」をかりたりする事は至つて危險ですからお止なさい。

○肺結核患者の痰は最も嚴重に始末しなければなりません、夫れには痰を必ず一定の唾壺のなかへ吐かせ充分消毒をした上でお棄てなさい、消毒をするには石炭酸水（之れは石炭酸五・〇、鹽酸一・〇、水九四・〇を混たもの）を痰の分量と殆んど等分に唾壺に入れて、數時間置きます、又左もなければ唾壺の儘「ブリッキ」の鑵か或は「バケツ」の様なも

のに入れて煮れば確に消毒が出來ます、外に侚ほ簡便な消毒法があります、此の方法にするには瀬戸物の唾壺を用意なさい、爾うして其の唾壺の中に最初洗濯曹達の粉にしたものを少し入れて置き、痰を此のなかへ吐かせます、痰がたまつたら其の痰の厚さほど曹達の粉を痰の上に撒きつめます、夫れから今度はグラ〳〵沸騰つた熱湯を其の唾壺のなかへ八分目程つぎます、夫れから蓋をして其の湯の冷るまで手をつけずに置けば痰は安全に消毒が出來ます、消毒の出來た痰は後で便所へ棄てても宜いのです。

○肺結核患者の居る部屋は、度々障子を明けて新鮮な空氣を部屋へ入れ、又充分日光のさしこむやうにし、其の上常に部屋を清潔にして置くことが肝要です。

○肺結核患者に用ゐる寢具や衣類は、毎日能く日光におほしなさい、日光は結核菌に取つては大敵ですから、之れを撲滅すには、日光は最良い武器であります。

○結核菌は濕熱にあふと、脆く死ぬものですから、牛乳は十五分以上煮沸てお飲みなさい、何故ならば牛乳は時に依ると結核菌の混入て居る恐れがあるからです、なほ結核患者の用ゐた飲食器は矢張り此の通り煮沸て消毒するが肝要であります。

○出所の明でない衣類、例へば古着屋から買つた古著の如きもの、其の他書籍でも器具でも一定の消毒をするか、或は古著の如きものは洗濯した上でなければ用ゐてはなりません、又轉宅するとき移轉先きの舊る家は、充分消毒を施し、清潔法を行つた後にお住みなさい。

○部屋は成るべく日光が能くさしこんで、明く風通しの良い處をお選みなさい、爾うして部屋のなかは常に清潔に掃除し、塵埃に汚れないやうになさい、部屋のなかを掃除するには、戸や障子を充分に開け放ち、人の居ない間におやりなさい、戸

や障子を除々開けもせずに、箒や采配で塵埃を拂ふのは極めて危險なことです、それで出來る丈け采配などで拂はずに、雑巾で拭きとるやうにするのが、結核豫防上、必要なる掃除の仕方です。

ロ、身體の抵抗力を強くする事

以上記せし如く、能く注意して、病毒に觸れない樣にすれば、傳染る恐れはありませんが、是れは唯銘銘一家内で行ふところの自衛法に過ぎません、此の外に未だ〳〵病毒の傳染る機會があるから、なかなか油斷はなりません、即ち外出もし交際もする、又旅行するとか、多くの人が集つた場所へ往くとかして、知らず識らず病毒に觸れないとは申せません、して見れば是非之れを防ぐ方法を講じて置かなければ中々安心が出來ないです、其の方法は平常から身體を強壯にして、假令病毒に襲はれても、病氣の發る餘地のないやうに鍛へて置くことであります。

身體を強壯にするには、先づ男でも女でも幼年ときときから體育を盛んにして頑丈な身體に鍛ひあげて置くのです、身體の強壯法としては先づ學校の團體的體育のほかに、銘々一個人としては毎日深呼吸を行ふことが必要です、深呼吸を毎日怠らず日課として行ひ肺を強くして置けば、萬一結核菌が飛びこんでも、發育繁殖て病氣をおこすことが出來ずに結核菌も遂には死んで仕舞ひます。

深呼吸を行ふには、毎朝空氣の新鮮きときが最も利益です、又初めから急激く行つても往けません、日を經て慣れて來たらソロ〳〵呼吸の數を增して宜いが、十分間位を程度となさい。

又冷水摩擦法を行へば、自ら皮膚が強くなつて來て、百病の基だと謂はれる風邪をひかぬやうになり、爾うして之れを行ふ間に知らず識らず深呼吸をしますから從つて肺の強壯になる助けとなります、冷水摩擦を行ふには朝牀を離れて直ぐにするが先づ一番良いのです、けれども人々の都合によつては、夜牀に就くときでも差支へありません、總て此の仕

方は冷水で手拭をしめし片つ端から全身をゴシ〲拭き其の後で乾いた手拭で又摩擦るのです、只注意くべきは冷水摩擦を畢つた後で、直ぐ薄着をしたり風に當つたりして身體を冷してはなりません。

強壯き身體には、結核菌が冒す隙がありませんが、肺結核に罹る心配もなくなります、生來身體の虛弱い人や、病後衰弱たもの、其の他肺結核に罹り易いものは、取分け衣食住に能く注意け、健康の身體となるやうに致さなければなりません、場合によつては醫師と相談して職業を選ぶ事抔も肝要であります。

三、肺結核初期の病狀

肺結核を治らない病氣だと思ふのは、全く考へ違ひです、只だ病氣が進んで容態が重くなつたものは何うしても治り難いのです、言換へて見れば病氣の初期ほど治りやすいのですから、少しでも肺結核の疑ひがあつたら、一日も早く此の病氣をたしかめて治療すが肝要であります。

けれど肺結核の初期には、酷い疼痛も苦しみもないものですから、大抵の人は左程氣にも留めず打捨てて置きます、夫れがため治療をする時機を失つて、遂に取りかへしのつかぬ大事になるのです、此の點は呉々も御注意をなさい。

ところで肺結核の初期は、何んな容態であるかと云ふに、多くは神經衰弱にでもかゝつて居るやうな有樣で、身體も精神も共に疲勞れやすく、又食事も餘り進まず、安眠も出來ず、ちきに感冒をひき咳嗽や痰が容易に治りません、其の他肩部が張つたり、胸部に一種の疼痛などがあつたり、尙一段病氣が進んで來ると、時々體溫が昇るとか盜汗をかくとか、顏色はだん〲蒼白くなつて赤味のさした血色が失くなるとか、身體の肉が次第に落ちて痩せるとか、斯ういふやうな容態になつて來ます、又時として突然血を喀いて夫れから肺病の始まるものもあります、孰にしても、今記したやうな疑ひがあつたら、何人

も捨置かずに、早速醫師の診斷を受けて治療に取り掛らなければなりません。

四、肺結核の治療及患者の注意すべき事がら

肺結核は治療が届いて、治る病氣でありますが、扨何分にも慢性く病氣ですから、とても一月や二月で治るものでありません、夫れ故假令長引いても失望したり煩悶するやうでは宜けません、よく醫師の注意を守り、氣を永く忍耐て治療をお受けなさい。

不幸にして肺結核に罹つても、決して悲觀むべき譯のものでありません、徒らに素人の勸めることや、賣藥の廣告などに惑はずに、一意專心、信用するところの醫師の治療を受け、其の間に折節血を喀いても、又病氣が良好ときや不良ときがあつても、決して恐怖たり失望したりするには及ばす、强き意思と不撓忍耐は肺病治療の秘訣なることを忘れてはなりません、肺結核を治療す上に於て右の外に尚次ぎの事柄に御注意なさい。

○食事の前後はおよそ三十分間づゝ休息なさい。

○食物は滋養分が澤山あつて、自分のすきな物をドシ〳〵召上れ、爾うして身體に精分をつけることが大切です、藥さへのめば治るものと思ふのは、大間違ひです、又素人は毒斷と云ふことを矢釜しくいつて、色々と食物の事を氣にしますが、自分が好きなら大抵なものは喰べた方が宜いのです。

○食事のときは、充分に能く咀嚼でおたべなさい。

○新鮮き空氣を呼吸ふやうに能く注意なさい、部屋は成可く日當りの善き場所をお選びなさい、爾うして空氣の交換は充分に能くなさい、又成可く室内にのみ閉籠らずに、天氣の穩かな日には、努めて戸外に出て、新しき空氣に觸れるやうになさい。

○遊戯をしても、讀書をしても、程よくする分には差支へありませんが、只だやり過ごさんやうに

不斷心掛けるのです。

○運動をし、深呼吸をし、又冷水摩擦をする事などは、醫師の指揮を受けてなさい勿論疲勞るまで行つてはいけません。

○病氣の程度により業務に從事ても差支へないですが、身體の疲勞る事や精神の興奮する事は避けないといけないです。

○肺結核患者は必ず公德を重んじて、自分の不注意のために、家族とか又は周圍の人に病氣を傳染さないやうに心懸けられたいです、ですから咳嗽一ッするにも必ず「ハンケチ」を口へ當てするやうになさい、又咯痰が出たら必ず唾壺へするやうになさい、若し出先で唾壺のない場合には、痰は「ハンケチ」とか紙へ受けて、歸宅の後、紙ならば燒すてるし「ハンケチ」ならば曹達水で能く煮て消毒の上洗濯なさい、外出中で「ハンケチ」も紙も持合せがなかつたら、溝のやうな處で、人の足の屆かぬ所へ痰をおはきなさい、總て斯樣なる心懸は啻に肺結核の蔓延を豫防するためばかりでなく、風邪で咳嗽が出、又痰が出るやうな場合でも之れを實行されたいものです、みだりに咳嗽をしたり、やたらに痰を喀いたりするのは、放屁や放尿と同樣に尾籠なことだと云ふ氣風を、國民一般に知らせたいものであります。

○肺結核患者ある家庭の人は、能く氣を揃へて看護し、又慰藉をし、豫防をしなければなりません、爾うすれば病人の治り方もはかどり、傳染の恐れもなく、やがては幸福の春が回つて來ます。

抄録

水道の利益

内務省衛生局（大日本私立衛生會雜誌二月號）

水は人の生命の根本ですから、必ず良い水を飲まなければいけませ

ん、處が水の良い場所は、存外少いものです、また良い場所であつても、人口が殖え、家屋の數が多くなるに從つて、其土地がおひ／＼汚れて來るので困ります、何んなに家のまはりを清潔に掃除して置いても、矢張段々に汚れるものです、斯樣に汚れた土地から湧出す水を、飲んだり使つたりして居るのは、衛生上最も危險なことです。

能く世間の人は「私宅の井戸水は綺麗だ」と自慢しますが眼で見て綺麗な水が、屹度良い水だと思ふのは、全く大間違ひです、本當に良い水は少いもので綺麗だと思つた水のなかにも、眼に見えぬ色々の細菌だの塵だの、其ほか種々さま／＼の不潔物がまじつて居ます、故に僅に一滴の井戸水を顯微鏡でのぞいて見てもこんなに色々な動物だの、植物だの、細菌などが、其なかにまじつて居るではありませんか、また時によると、赤痢や、「コレラ」や、腸「チフス」の樣な、恐るべき傳染病のもとになる細菌もまじつて居ます、然し幸に、こんな危險な細菌がまじつて居ないでも、ほかの細菌が澤山居るやうな水では、いつ傳染のもとになる細菌が、其なかに入りこむか知れません、それですから、平生斯んな水を飲んだり、使つたりして居ると、いつ恐るべき傳染病にかゝるか知れません、實に油斷のならぬ事です。

水道の水は、本當に良い水であります、故に此水は、誰が飲むにも使ふにも、最も安全です、水道の水は、何のくらゐ綺麗かと云ふに、其なかにまじつて居る細菌の數や、其他のものを、普通の井戸水に比べて見れば、直に明にわかります。

又水道の水が、腸「チフス」や赤痢のやうな傳染病を豫防するのに、如何に大切であるかは、東京、大阪、新潟其他の地方に於て、水道が出來ぬ前と、出來てから後の傳染病患者の數を比べて見ましても、特に腸「チフス」や赤痢が水道の水を飲んだり、使つたりしてゐる人には少なく、さうでない人々には非常に多い、又それらの傳染病で死んだ人も、水道の水を飲んだり、使つたりして居る人には、遙に少ないことが明かになつて居ります。

然し水道の水を飲みもし、使ひもして居る人のうちから傳染病患者が出たり、死んだりするから、當にはならぬと云ふ疑ひを起す人があるかも知れませんが、之は水道の水から來たのでなく、全くほかの食物や蠅などからうつゝたものであります。

水道が普及すれば、恐るべき傳染病患者の數の減るのは確かな事實です。

人若し不幸にして、腸「チフス」に罹つたら、それこそ實に大變です、病牀についてから全快するまでには、先づ五十日間ぐらゐはかゝります、其うへ治療費は、少くとも一日一圓以上いるから、如何しても五十圓以上はかゝります、其他雜費や收入の減るのを見積ると、莫大な損ではありませんか、それでも癒ればまだしも、此病氣にかかると、百人のうち二十人は死にますから、萬一此二十人のうちへ入つたら、當人の不幸は勿論、一家の悲しみは何れ程でありませうか。

平生水道の水を飲み、水道の水を使へば、衛生上至極安全なるばかりでなく、まだ外にも澤山利益があります、其あらましを次ぎに記しませう。

一、衛生上大なる利益ある事は申迄もありません。

二、「子ジ」を一つひねれば、水は幾らでも出ますから、子供にも、老人にも、人手をかりずに水が使へます、大家では下女一人の仕事が違ひます。

三、水道を引いて置けば、流元に手桶や、水がめ、其他の容器を置

かすに濟みます。

四、水道の水で洗濯すると、少しの石鹸でも綺麗になります。

五、水道の水を使つて居ると、手足の荒れ方が少い婦人の手足を見て水道の水を使つて居る人か、或は堀井戸の水を使つて居る人かが、大概分ります。

六、水道のある家では、火事に入用な器械を整へて置けば、誤つて失火しても、大事に至らぬうち、直ぐ消止めることが出來ます。

七、水道の水で、食物を煮焚すれば、早く腐る、憂なく殊に夏は御飯の腐り方が非常におそいのです。

八、蒸汽汽罐等に、水道の水を使へば、水垢の附着かたが少く、また鐵な腐蝕することも少いので、汽罐の保存もよく、又燃料の經濟にもなります。

日々水道料を拂つて、水を使うのは、一見不經濟のやうに考へる人があるかも知れませんが、前に汎せし通り、病氣のときの損害や、總ての事に便利で、且つ經濟である點を能く比べて見たら、水道料は實に廉價いものです、凡そ一人の水道料は一ヶ月僅に十錢ぐらゐのもので殆ど一度の菓子代にも足らぬ程で濟みます、また人一生涯のうちに、仕拂ふ總額は、凡そ人の一生を六十年間と見積つてもわづか六七十圓に過ぎません、此位の費用は、一度病へば直ぐかゝります、若しまた傳染病にかゝつたら、獨り自分一人の失費ばかりでなく、國や町の費用もかゝれば、他人の迷惑にもなります、故に自分の爲めにも、人の爲めにも、非常な利益になりますから、一日も早く水道をひくやうにしたいものです。

砂糖は安産藥

天籟道人（家庭の醫學第一卷第一號）

ヘルステルと云ふ學者が、砂糖の筋肉能作に及ぼす作用と題する業績を見ると砂糖を飲用してから三四十分も經つと、筋肉の能作が增進して來るものであつて、定時内の作業には頗る好影響があるものであると公表し、自己の實驗は勿論、諸大家の成績をも併せて報道して居る、歐洲諸國に於ける狩獵家、又は登山者、若しくは自轉車の乘手などは悉く砂糖の飲用を行つて居る、最近シヤメインゼー氏等の唱道に據れば、心臟缺損症及び心臟衰弱の諸症には砂糖が有効であると稱へ出して居る、就中ピユリング氏は砂糖を以て陣痛の催進藥であつて、然も安產藥であると賞用して居るのである、我邦に於ても古來の慣用として、陣痛微弱の產婦に對して、熱湯に卵黃と砂糖とを混和したものを飲用せしめて效果を奏することがある、此點から見ても、筋肉能作を增進せしむることが確かめられるのである、外國でも之を實行して居る所が澤山あるのである。



○看護婦規則

去る十八日中央衛生會本會に於て、過般委員會に

て可決されたる看護婦規則省令案を附議したる筈なるが、該規則は全文十二條より成り、その要點は年齢を十八歲以上、修業年限を一ヶ年以上と限定し、精神病、傳染病等ある者は勿論、操行不良の者は許可せず、許可後にも不正の行爲ありたる場合は業務を禁止若くは停止し得ることゝし、指定學校若くは同養成所出身者には無試驗にて免狀を下附し、猶ほ學識に乏しきも經驗を有する者に對しては、履歷を詮衡の上、准看護婦として之を免許することになり居れりと。

○「トラホーム」唱歌

陸軍二等軍醫正橫井忠國氏は、徵兵檢査、學童身體檢査の成績、海外移民の上陸拒絕、盲人の原因調査等に於ける統計及び日常眼病者中の多數は「トラホーム」諸症たるの現況は、愛國者の輕々に看過すべからざる重要事なりとし、世人の注意を喚起し、本病に對する概念の印象を深からしむるの一助として左の唱歌をものせられたり。彼の遠山博士の結核征伐の歌と同巧一對の好衞生唱歌なり、左の如し。

畏れて避けよトラホーム　ゆめ侮るなトラホーム
威風凜々しき益良夫も　容色すぐれし手弱女も
此病症に感じては　顔を醜く、汚すのみか
學藝家業任意ならで　不幸をかこつ身とぞなる
佛蘭西・白耳義・埃及の　歷史に殘る例を看よ
軍の力、國の富　皆此の爲めに殺がれたり
アナ恐ろしやトラホーム　アナ忌はしやトラホーム
今我國にもこの病　年一年と蔓延し
統計表に據るときは　五人に一人ありと云ふ
學校生徒や軍人は　檢査を受くる便あるも
其他の人は知らぬ間に　病みつゝ在らん危險さよ
そも此の病の容體は　眼瞼の裏にむら〳〵と
細く小さき顆粒の　心地惡くも發生し
初期はむづ痒く　埃の如くコロつきて
眼脂に流淚がすみ　眼精疲勞あるもあり
漸々進み角膜に　翳膜をかくる事となる
眼瞼の爛れ逆睫毛　病眼流行眼逆上眼と
種々に姿を變へゆきて　果は盲となり畢る
斯く畏ろしき眼病も　常に注意を懈らず
豫防の法に努めなば　防げぬ事のあるべきや
手拭ハンケチ洗面器　其他患者の眼や顔に
觸れたる品は何にても　共同に使用へば感染るなり
總べて不潔は敵にして　皆傳染を媒介す

殊に手顔を清潔にし　此病毒を豫防せよ
さして苦惱のなきまゝに　とかく療治は後れがち
手後れしては何病も　容易に癒えぬものぞかし
されば異狀を知り次第　直ちに早く手當せよ
都の人も鄙人も　豫防治療に努めよや
賤しき人も貴きも　豫防治療に勉めよや

○結核豫防かぞへ唄

（愛知結核豫防會作歌）

一つとや　人々心をそゝぎてよ／＼、結核病こそ國の寇／＼
二つとや　ふせげや／＼ふせがずば／＼、家をも國をも失はん／＼
三つとや　見おろすめがれの黴菌は／＼、しづくの中にも數百萬／＼
四つとや　夜晝つとめて怠るな／＼、豫防消毒隔離法／＼
五つとや　いくさで死より尙多し／＼、年々歳々十餘萬／＼
六つとや　無上の權利も軍人も／＼、これには打かつ力なし／＼
七つとや　何より大事の此命／＼、いかでかお金に替られう／＼
八つとや　野外の散歩や深呼吸／＼、毎日／＼忘るなよ／＼
九つとや　光線浴法その外に／＼、冷水摩擦や海氣浴／＼
十とや　外國以上に努力せば／＼、日本萬歳萬々歳／＼

○女教師の職業的能力

結婚せし女教師の職業的能力を見るために面白き檢査行はれたり。これが調査を行ひしはドクトル　マッキスウェルと呼ぶ紐育市學校監の職にある仁なり。この檢査に用ひしは百十四人の女教師なり。調査事項は、此等婦人の結婚四年前までに渉りて行はれたり。これと同じく結婚後四年間に至ることも調査せられたり。

右につき調査の成績によれば、職業に對する能力は結婚前よりも結婚後の方優れり。併し缺勤の數は、結婚後の方が結婚前より多かりしと云ふ。即ち結婚以前は一個年間の平均缺勤日二十一日なりしが、結婚後は二十八日なりしと云ふ。

尙ほ面白きことは、夫に死別れたる女教師が、寡婦となりて働く場合に夫ありしときより、成績の良好なるを證明せられしことなり。

○辨當主食物調査

醫學博士遠山椿吉氏は、學校生徒の辨當主食物調査の資料として各地の教育家竝びに學校醫諸氏へ調査の援助方を希望せられたるが、その要點は左の如し。

一、調査は凡て左記調査票に據ること。

二、學校は小中學を始め何種學校にても差支なきこと。
三、期限を附せざるも四月末日迄を希望す。
四、調査書は東京小石川區指谷町大日本學校衛生協會醫學博士山極吉氏宛の事

調査票

何縣何郡何市町村　何々學校
何年級生徒調査　何名
主食物の種類
一、白米飯　何名
内
精白の程度｛純白　精白し　玄し｝或は中搗、三分搗等　何名　何名　何名
二、麥飯　内混
内
混麥の割合｛中々　約何割｝　何名　何名
三、玄米飯　何名
四、其他の糅飯　何名
（玄米、粟、稗、大豆、小豆、甘薯、大根、乾葉等大約の混量各別に）
五、「パン」　何名
六、餅、團子、饂の類（各別）　何名
七、單に芋其他の穀果のみのもの何名
以上の外副食物等に特に注意すべき事項あれば御書き添へを乞ふ
右調査者
職　氏　名

○結核豫防消毒注意書

芝私立衛生會にては今回結核に對する豫防消毒に付き左の注意書を配布せり。

一、病人の居た部屋は晴天の日に襖障子を取りはづし消毒藥（石炭酸、「クレシン」、「アイゼル」）ですべての場處を拭き取るのです、別けて額の背面、承塵の上等に注意して微塵も殘らん樣にきれいにします。

二、戸障子は屋外で充分埃を掃ひ、拭はれる部分殊に引手の邊は丁寧に藥液でふき取るのです。

三、西洋間であれば、「フォルマリン」瓦斯消毒を用ゐても宜くあります。

四、消毒のすんだ部屋は、數日間開け放して盛んに日光と空氣を入れ充分に乾く樣にします。

五、病人の身體にふれた一切の品物、衣服、夜具、食器、書籍、手廻り道具殘らず消毒なさい、別して病人の痰を入れたる器、痰の觸れたる「ハンケチ」、鼻紙、煙管、衣服、夜着の衿等嚴重に注意して消毒をなさい。

普通の衣服夜具は蒸汽消毒を用ひ、小さき布帛のものは沸湯で三十分以上煮てもよろしい。

貴重なる品、絹布、紙製、革製品等は「フォルマリン」瓦斯消毒で

なければ傷みます。
價の高くないものは燒き棄るのが一番安全です、殊に居間の塵、紙屑、繃帶等は燒き棄るに限ります。

六、一旦消毒したるものも折々强い日光に曝せば、更に消毒も完全になり乾燥もし愈々安全になります。

七、何事にても消毒しないまゝで人に讓り又は賣拂ふのは、危險を人に傳へる譯で、公德上是非御控へなりたいです。

八、屍體は可成火葬がよろしくあります。

九、消毒を他に依賴なさるなれば、東京市立消毒所（深川區東大工町）其他私立のものもあります。

十、消毒の事は醫師に相談なさるが宜しい、場合によつては本會事務所（芝區役所內）に御照會なされば及ぶだけは御相談に預ります。

十一、御家族の方は滋養物を澤山に召上り運動を適宜になされ、身體を大丈夫にし少しにても異常があれば、取置かず醫治を加へて癒して仕舞なさい、そうすれば間違て少しばかりの病毒が殘つても向からにげ出します。

廣告

○私立大日本婦人衛生會例會

同例會は去る六日午後一時より神田區一ツ橋通り共立女子職業學校內にて開會、海軍少佐遠藤格氏は、過般猛威を逞しうして世を驚かしめたる獨逸軍艦エムデン號の行動を縱として、今回の歐洲大戰亂に於ける各國海軍の狀況を說明しつゝ、吾々日本人の大に學ぶべき事、覺悟すべき事共に就て警醒せられ、次で醫學士佐々木秀一氏は、結核の有無輕重を題し、主として結核の病理に就き平易に解說せられ、自ら吾人のこれに對する衛生上の注意を喚起せられたり、右終りて階下の別室に於て歡談の上午後四時過ぎ散會せり。因に當日出席の役員は左の如くなりき。

濱尾副會長　岡田德子　緒方悅子
田村きよ子　山本多穗子　山口貞子
岸澄子　高木錄子　（以上出席順）

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

幹事（いろは順）

幹事 鳩山春子
同 羽田三緒子
同 岡田徳子
同 高木傑子
同 山本多穂子
同 三浦牧子
同 松平芳子

評議員 石川貞子
同 岩下ゆか子
同 濱田捨子
同 長谷川仲子
同 服部繁子
同 仁禮壽賀子
同 西外子
同 土肥多越子
同 緒方悦子
同 岡山とし子
同 小川孝子
同 男爵夫人 加藤鈴子
同 片山龜子
同 吉武輝枝子
同 丹波貞子
同 高橋孝子
同 田村きよ子
同 鶴原誠子
同 男爵夫人 南部閑子
同 中濱芳子
同 山口貞子
同 子爵夫人 松井正子
同 吉市幸子
同 伯爵夫人 阿部篤子
同 岸澄子
同 菊池条子
同 三宅藤子
同 宮本樂子
同 宮下咲子
同 守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價	廣告料	規定
一冊 定價金貳拾錢 郵税壹錢 三冊（三ヶ月分）前金郵税共 金四拾五錢 十二冊（一ヶ年分）前金郵税共 金壹圓八拾錢	一頁 六十二行 一行二十三字 壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢 ○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓 ○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢	○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正四年三月十七日印刷
大正四年三月二十日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區根津西須賀町九番地 莊司秋次郎
印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 田中增藏
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市麹町區富士見町二丁目三十二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鈴屋町 眞明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店